

## オープニングセレモニー

### 【五所川原立佞武多運行団体協議会】

五所川原立佞武多運行団体協議会は、大型ねぶた、中型ねぶた、及び組ねぶたを運行する団体の集まりです。運団協には22団体が所属しておりますが、今大会においては、その中から、踊りや囃子等、選りすぐりの演者を集めて演奏させていただきます。

## アトラクション

### 【西北ジュニアウインドブラス】

西北地域（五所川原市・つがる市・中泊町・鶴田町）の小中学生によって構成される吹奏楽団です。初めて楽器に触れるメンバーも多い中、一人ひとりがしっかりと自らの目標をもち、皆で楽しみながら一生懸命練習に励んでいます。地域イベントはもちろん、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストへも積極的に出場しています。

### 【金木三味線倶楽部】

津軽三味線の元祖といわれる「神原の仁太坊」は、旧金木町の出身です。津軽三味線発祥の地に生まれた私たちは、その良き伝統と文化を継承したいという思いで日々活動しています。普段は金木小学校・金木中学校が各々に練習に励んでいます。今回の発表を機に初めて合同で練習に取り組みます。西北五つ大会の成功と伝統芸能の繁栄のため、心をこめて演奏します。

### 【青森県立木造高等学校吹奏楽部】

木造高等学校吹奏楽部は、踊りながら演奏する「ダンス&プレイ」、略して「ダンプレ」を中心に行っています。部員一人ひとりが、皆で一つの音楽を創り上げることへの喜びを感じながら活動しています。地域のイベントにも呼んでいただく機会が多く、幅広い年代の方々からご声援をいただいております。今回は木造高校吹奏楽部のパワー溢れる「ダンプレ」をぜひお楽しみください。

問い合わせ  
申し込み先 57seihokugotsu@gmail.com

第57回青森県PTA研究大会西北五つ大会事務局つがる市立木造中学校

※参加申込書は、青森県PTA連合会のホームページ(<https://aomoriken-pta.jp>)からダウンロードできます。

※大会参加費入金後、不参加となった場合、原則として返金はいたしません。

## 参加者へのお願い

- ①会場周辺の駐車場には数に限りがございますので、自家用車でお越しの場合は乗り合いにご協力ください。
- ②大会当日は、参加証としてリストバンドをお渡しします。大会中は、必ずこのリストバンドを着用してください。

参加費：2,000円 お弁当代：1,500円

キリトリ

第57回青森県PTA研究大会西北五つ大会

参加申込書

申込みメ切 9/29 (月)

お子さんの在籍校に提出

学校名 氏名 役職

①～③の全ての項目に○をつけてください。

①全体会（参加・不参加） ②分科会（第一分科会・第二分科会） ③弁当（¥1,500）（要・不要）

# 第57回青森県PTA研究大会 西北五つ大会 (二次案内)

令和7年11月9日(日)

五所川原市ふるさと交流圏民センター（オルテンシア）

第57回青森県PTA研究大会 西北五つ大会

実行委員長 白戸和也

子ども達にとって学校は楽しい場所であって欲しい。分かり合える仲間が一人でも多くいて欲しい。得意であると感じられることを一つでも多く見つけて欲しい。

そのためには人口減少社会においても子ども達の教育活動を充実させ、それを支える大人たちがいかに負担なく楽しくPTA活動を継続できることが大切であるのではないのでしょうか？教員の働き方改革、部活動の地域移行、コミュニティスクール（地域の協力を得ながら共に学校を運営する仕組み）等の取り組みのすべてが子ども達の楽しく学ぶ環境を、持続可能とするためのものです。今大会がそれらの活動を考えるきっかけや参考となることを願ってやみません。

多数の会員の皆様にご参加いただき、各学校の活動にお役立ていただけると幸いです。



主催 青森県PTA連合会

主管 つがる市連合PTA

副主管 西郡連合PTA・北五連合PTA

第57回青森県PTA研究大会西北五つ大会 大会長 棟方 文博 実行委員長 白戸 和也

【日 程】

9:15	9:45	11:00	12:30	14:00	15:30	15:40	16:35
受付	開会行事 表彰式	記念講演 樋川 新一 氏 ※りんご娘	昼食	分科会	休憩		アトラクション 次期開催地挨拶

【記念講演】

講 師 株式会社 樋川自動車 代表取締役  
有限会社 リンゴミュージック  
代表取締役 樋 川 新 一 氏  
※りんご娘

演 題 「この街で夢をかなえる」  
～地方活性化アイドル達の挑戦～

profile



樋 川 新 一 氏

(有限会社リンゴミュージック 代表取締役)

「地方と都会の情報・意識レベルのギャップ」「有能な若者の流出」といった故郷青森が抱える現状に課題意識を持つ樋川新一氏。弘前に生まれ育ち、一度は地元を離れるも、1997年に帰郷したことをきっかけに、「何をしたら弘前が、青森県が魅力ある、面白い、豊かな街になるのか？」という問いと向き合ってきた。経済的な豊かさや雇用創出には時間と資金が必要とされる中で、樋川氏は「何もないゼロの状態からでも、できるだけ早く、そして楽しみながらの街づくりには芸能・音楽等がセンターピン」であると

提唱する。インターネットの普及により、都会でなくても情報が得られる現代において、青森が持つ豊かな自然、そして人間らしい生活こそが最大の強みであると解く。

「きれいな水・土・太陽・空気」といった自然は人間にとって不可欠なものであり、このような素晴らしい環境は、音楽・芸術といった感性を育む最高の土壌であるという確信がある。樋川氏は、若者を中心とした参加と協力、そして大人たちの応援が続く限り、あらゆるジャンルの企画・イベントを展開し続けることを宣言している。

「必ず、都会と地方の『逆転の時代』が来る」と語る樋川氏。誰かが小さなことから、少ない人数からでもきっかけを作り、そしてやり続ければ夢は叶うと信じている。そして、故郷青森県が全国からの注目と賞賛を浴びる日が来ることを目指し、その活動は日々進化を続けている。

後援一覧

青森県 つがる市 五所川原市 青森県教育委員会 つがる市教育委員会 五所川原市教育委員会  
 鯉ヶ沢町教育委員会 深浦町教育委員会 板柳町教育委員会 鶴田町教育委員会 中泊町教育委員会  
 青少年育成青森県民会議 青森県小学校長会 青森県中学校長会 青森県小中学校教頭会  
 青森県高等学校PTA連合会 一般財団法人青森県PTA安全互助会  
 株式会社東奥日報社 株式会社デーリー東北新聞社 株式会社陸奥新報社

**第一分科会**

## 健全育成 協働教育

基調講演者  
**三戸 延聖 氏**  
弘前大学教育学部  
教職実践専攻・教職大学院 教授

会場  
オルテンシア  
コンサートホール（大ホール）

---

**テーマ 青森教育新時代におけるPTAの新たな展望**

**研究内容**

「こどもまんなか青森」の実現には、行政や教職員、学校関係者だけでなく、保護者、地域、企業等、青森県内のあらゆる主体が一丸となって学校教育と向き合うことが重要です。教育改革を着実に進めていくためには、子どもにかかわる一人ひとりが教育現場の抱える問題と真摯に向き合い、これまでの常識や経験、価値観や思考の枠組みを問い直し、行動を変えていかなければなりません。変わりゆく令和の教育現場において、今、PTAが担うべき役割、求められる役割とは何なのか、参加者一人ひとりが深く考える好機となります。

**現状と課題**

今日の学校教育において、全ての分野・機能を学校単体で担う現状には限界がきています。教職員の働き方改革、Well-Beingの向上に向けた環境整備は未だ不十分であると言わざるを得ません。我々PTAも今こそ教育現場の様々な問題を正しく理解し、時間や人材などリソースが不十分な面において、確かな協働体制の構築を目指す必要があります。青森の子どもたちの明るい未来のために、あらゆる変化の波を受け止めながら、大人も子どもと共に学び挑戦し続けられる協働教育の実現を目指したいと考えます。

**基調講演テーマ**

### 「今を大切にする」ことが道を切り拓く ～子どもは未来そのもの～



**三戸 延聖氏 プロフィール**

弘前大学教育学部教職実践専攻・教職大学院教授  
青森県出身。大学卒業後、青森県立高校の教諭として勤務。三本木高校、青森高校を経て、東北三県交流事業により秋田県立横手高校に勤務。その後、教育庁での勤務を経て、弘前実業高校や田名部高校で管理職を務める。2019年に青森県教育委員会事務局教育次長の後、総合学校教育センター所長などを経て現職。

**第二分科会**

## 家庭教育 人権教育

会場  
オルテンシア  
ふるさと交流ホール（小ホール）

---

**演 習 「あおもり親楽プログラム」  
タブレット、どう使う？～ICT機器使用のルール～**

**「あおもり親楽プログラム」**

子どもの理解や親の関わり方など子育てに必要な知識やスキルについて、親同士が身近なエピソードやワーク等とおして話し合い、主体的に学ぶ「参加型の学習プログラム」です。親同士が話し合いを進めていく中で、それぞれが自分自身の課題に気づいたり、親としての役割やあり方について考えたり、整理することをねらいとしています。

**「タブレット、どう使う？～ICT機器使用のルール～」**

今回のエピソードは、現代社会とは切り離すことができないICT機器についてです。スマートフォンやタブレット等は便利なものである一方、子どもがゲームやSNS等に没頭しすぎて、親が機器の扱わせ方に悩むを抱えることも珍しくありません。そこで、ICT機器使用のルール作りについて、親としてできることを一緒に考えてみませんか？

事業説明 青森県教育庁生涯学習課 地域連携推進グループ 社会教育主事 工藤 慎也 氏  
 講 師 家庭教育アドバイザー 工藤 貴子 氏  
 越田由美子 氏

